

令和7年度使用教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））総合所見

令和6年8月19日（月）

呉市教科用図書（中学校・義務教育学校（後期課程））選定委員会

	東書	三省堂	教出	光村
観点1 知識及び技能の習得	・各学年とも、本編に情報活用に係る単元が設定され、「情報と論理の学び」の前後に、「読むこと」と「話すこと・聞くこと」、「読むこと」と「書くこと」の活動に関する教材が掲載されている。	・各学年とも、本編に情報活用に係り、「情報を関係づける」という単元が設定され、教材の掲載前に、情報の扱い方について説明されている。また、同単元内に、「話すこと・聞くこと」又は「書くこと」の活動に関する教材が掲載されている。 ・第1学年の単元では、防災に関する資料A、資料Bの二つが掲載され、複数の情報を関連付けて考える学習ができる。豪雨災害を経験した本市の生徒にとって自分事として捉えやすく、より情報の扱い方への理解を深めやすい。	・各学年とも、本編の情報活用に係る単元、第1学年「情報を得る」、第2学年「情報を捉える」、第3学年「情報を共有する」が設定されている。	・各学年とも、本編の情報活用に係る単元「情報×SDGs」が設定され、教材が掲載されている。また、「情報整理のレッスン」及び「思考のレッスン」が設定され、情報の扱い方と関連させた「書くこと」の活動に関する教材が掲載されている。 ・第2学年の単元では、災害時における情報収集の場面を取り上げ、インターネットの活用と関連付けた学習ができる。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・合意形成に関する単元において、学習過程について、話し合いのテーマを決め、提案したことを出し合い、整理し、意見をまとめるまでの流れが示され、資料等でポイントが掲載されている。	・合意形成に関する単元において、学習過程について、「話し合いのこつ」を見付け、グループで話し合い、話し合いでの発言を振り返るまでの流れが示され、資料等でポイントが掲載されている。	・合意形成に関する単元において、学習過程について、自分の意見とその根拠を考え、話し合いの役割や進め方を確認して話し合い、進行や内容を振り返り、話し合いにおける大切な点をクラス全体で共有するまでの流れが示され、資料等でポイントが掲載されている。	・合意形成に関する単元において、学習過程について、議題を決め、グループで提案を考え、全体会議を開き、合意形成のポイントを振り返るまでの流れが示され、資料等でポイントが掲載されている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・各学年とも、日常生活、身近な地域、社会生活の中から題材を決め、学年ごとに、系統的に配列された目標に応じて書く活動が設定されている。 ・教材文の「見通す」に目標、生徒目線で書かれた「問いかけ」が示され、教材末の「振り返る」で生徒自身が確認するようになっている。 ・目標に対して、学んだことを振り返るように促されている。	・各学年とも、日常生活、身近な地域、社会生活の中から題材を決め、学年ごとに、系統的に配列された目標に応じて書く活動が設定されている。第2学年においては、「話す・聞く」との複合単元で、「地域の魅力」について話し合い、書く活動が設定されている。職場体験学習等と関わらせ、主体的な学びを促しやすい。 ・教材冒頭で目標を示し、教材末の「学びを振り返る」で、学んだことを自分の言葉でまとめるようになっている。また、振り返りのキーワードがある。 ・「思考の方法」を用いて学習し、それについて自分の言葉で振り返るようになっている。 ・全学年、全単元で、振り返りのキーワードを使って、自分の言葉で書かせる活動が設定されている。	・各学年とも、日常生活、社会生活の中から題材を決め、学年ごとに、系統的に配列された目標に応じて書く活動が設定されている。 ・学習目標に即した振り返りが掲載され、生徒自身で確認するようになっている。 ・「振り返り」は三観点で振り返るようになっている。 ・「学びナビ」を用いて学習し、「振り返り」で確認するようになっている。	・各学年とも、日常生活、社会生活の中から題材を決め、学年ごとに、系統的に配列された目標に応じて書く活動が設定されている。 ・学習目標に即した振り返りと、学びを生かす振り返りが掲載されている。 ・振り返りは、三観点で振り返るようになっている。 ・「学びのカギ」を用いて学習し、「振り返り」で確認するようになっている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・各単元は、「読むこと」の教材と、「話すこと・聞くこと」「書くこと」のどちらかの領域の教材及び知識及び技能教材で構成されている。 ・「読むこと」は、教材文の後に「てびき」がある。「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材は、教材の中に「てびき」の項目がある。	・各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の複数の領域からなる教材と、知識及び技能教材で構成されている。 ・「話すこと・聞くこと」の題材として読書活動に関連させたものがある。 ・「読むこと」は、教材の前後に「読み方を学ぼう」がある。	・各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内、複数の領域からなる教材と知識及び技能教材で構成されている。 ・「読むこと」は、教材の前に「学びナビ」（見通し）を、教材文の後ろに「みちしるべ」（学習のてびき）がある。	・各単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と知識及び技能の内、複数の領域で構成されている。 ・「読むこと」は、教材の終わりに「学びへの扉」がある。
観点5 内容の表現・表記	・「文法解説」「資料編」として全学年に巻末資料が示されている。 ・デジタルコンテンツについては、〔知識及び技能〕に関わる二次元コードがある。また、〔思考力、判断力、表現力等〕のポイントや、活動の具体例、作品の紹介・解説につながる二次元コードが示されている。	・「文法のまとめ」「読書の広場」「社会生活に生かす」「参考資料」として全学年に巻末資料が示されている。 ・デジタルコンテンツについては、〔知識及び技能〕に関わる二次元コードがある。また、〔思考力、判断力、表現力等〕のポイントや、活動の具体例、作品の紹介・解説につながる二次元コードが示されている。	・「言葉と文法（解説編）」「言葉の自習室」「漢字」として全学年に巻末資料が示されている。 ・デジタルコンテンツについては、〔知識及び技能〕に関わる二次元コードがある。また、〔思考力、判断力、表現力等〕については、活動の具体例、作品の紹介・解説につながる二次元コードが示されている。	・学びを深める「文法」「漢字」「国語の力試し」「語彙ブック」「資料編」として全学年に巻末資料が示されている。 ・デジタルコンテンツについては、〔知識及び技能〕に関わる二次元コードがある。また、〔思考力、判断力、表現力等〕のポイントや、活動の具体例の二次元コードが示されている。

	東書	三省堂	教出	光村
観点1 知識及び技 能の習得	・筆使い及び紙面構成等の示し方について、「1 見つけよう」では、朱墨と薄墨で筆使いが、点線で筆脈が示されている。 ・ポイントとなる箇所に、「行書の動きのパターン」にあてはまる筆使いがマークで示されている。第1，2学年の行書の教材において繰り返し示されており、行書の書き方の基本を習得しやすいと考える。	・筆使い及び紙面構成等の示し方について、「書き方を学ぼう」では、矢印や点線で筆脈が示され、言葉で解説されている。 ・主教材となる文字の行書（朱墨と薄墨）と、楷書（黒墨）が並べて示されている。	・筆使い及び紙面構成等の示し方について、「考えよう」では、朱墨と薄墨で筆使いが、矢印や点線で筆順と筆脈が示され、言葉で解説されている。 ・ポイントとなる箇所に、「変化」「連続」という文字と写真で筆使いを示している。	・筆使い及び紙面構成等の示し方について、「② 確かめよう」では、朱墨と薄墨で筆使いが示されるとともに、ポイントとなる箇所に、写真と言葉で筆使いが示されている。 ・半紙原寸大の主教材の文字の横に、朱墨と薄墨で筆使いが示されている。
観点2 思考力、判 断力、表現 力等の育成	・「目標」では、「楷書と行書を使い分けるには、どのような観点が必要か、理解しよう」と示され、場面に応じて楷書と行書のどちらを使う方がよいか、考える場が設定されている。 ・「書写のかぎ」では、楷書と行書の特徴と、書体を使い分ける際の観点が示されており、同じページに楷書と行書で書き分けた具体例が掲載されており、書体の使い分けによるイメージを視覚で捉えやすい。	・「目標」では、「目的や必要に応じて、書体を選択して書くことができる」と示され、3つの場面に応じて、楷書と行書のどちらの書体を選ぶとよいか考え、理由も含めて話し合う場が設定されている。 ・書体を使い分ける際に意識することとして、「読み手」「目的」「状況」という観点が示されている。	・「目標」では、「書写の学習で身につけた力を、学習活動や日常生活に生かして書こう」と示され、場面に応じた書き方をするにはどのような点に注意するとよいか、話し合うための観点を示している。	・「目標」では、「場面に応じて、楷書か行書か選択して書く必要があることを理解しよう」と示され、場面に応じて楷書と行書のどちらで書くことが適しているか考え、実際に書く場が設定されている。 ・「学びのカギ」では、楷書と行書を使い分ける際の観点が示されている。
観点3 主体的に学習 に取り組む工 夫	・他の学習や生活の様々な場面につなげるための工夫として、学習してきたことを生かして書く場が複数設定されている。 ・「目標」と明記し、学習のまとまりごとにページ右下部に目標が示されている。 ・「振り返ろう」と明記し目標と対応させ、学習のまとまりごとに振り返りが示されている。自分の書いた文字を元に話し合う振り返りでは、学んだことを一旦表現し、客観的に観察し合う場の設定ができ、学びを整理しやすいと考える。	・他の学習や生活の様々な場面につなげるための工夫として、学習してきたことを生かして書く場が複数設定されている。 ・「目標」と明記し、学習のまとまりごとにページ右下部に目標が示されている。 ・振り返りのマークとともに振り返りが示され、単元末には、「振り返ろう」と明記され、学習したことを硬筆で書き直す枠とともに、学んだことを自分の言葉で書く欄が設けられている。	・他の学習や生活の様々な場面につなげるための工夫として、学習してきたことを生かして書く場が複数設定されている。 ・「目標」と明記し、目標のマークとともに学習のまとまりの最初のページに目標が示されている。 ・「振り返ろう」では、評価の観点を示し、その観点到に沿って「できた＝○」「もう少し＝△」で自己評価できる欄が設けられている。	・他の学習や生活の様々な場面につなげるための工夫として、学習してきたことを生かして書く場が複数紹介されている。 ・学習のまとまりごとに目標が示されている。 ・目標の下に目標が達成できたかチェックを入れる「振り返ろう」欄が設けられている。
観点4 内容の構成・ 配列・分量	・各学年とも、毛筆教材や硬筆記入欄が設けられている。	・各学年とも、毛筆教材や硬筆記入欄が設けられている。	・各学年とも、毛筆教材や硬筆記入欄が設けられている。	・各学年とも、毛筆教材や硬筆記入欄が設けられている。
観点5 内容の表現・ 表記	・二次元コードが豊富に掲載されており、資料や毛筆動画等を閲覧できる。 ・第1学年「はじめに」の二次元コードから、既習内容や姿勢と筆記具の持ち方、基本の点画の書き方等が確認できる。	・二次元コードが豊富に掲載されており、資料や毛筆動画等を閲覧できる。 ・巻頭の「学習のはじめに」の二次元コードから、毛筆の際の姿勢や筆の持ち方、用具の使い方等、硬筆の際の姿勢や鉛筆の持ち方等が確認できる。	・二次元コードが豊富に掲載されており、資料や毛筆動画等を閲覧できる。	・二次元コードが豊富に掲載されており、資料や毛筆動画等を閲覧できる。 ・巻頭の二次元コードでは、用具の扱い方や準備の仕方、姿勢、学習の前後の体操の様子の動画が閲覧できる。

種目名〔社会（地理的分野）〕 総合所見一覧

	東書	教出	帝国	日文
観点1 知識及び技能の習得	・1時間ごとの学習課題は、「地球の姿を見てみよう」のようにタイトルが示され、その右横に1時間の学習課題が示されている。 ・単元のまとめに学習内容を確認するコーナーが設けられており、個人活動とグループ活動を組み合わせ、協働的な学びを促すことによって、身に付けた知識・技能をより深く習得させる工夫がある。	・1時間ごとの学習課題は、「地図から見える世界」のようにタイトルが示され、その右横に1時間の学習課題が示されている。 ・単元のまとめに学習内容を確認するコーナーが設けられており、グループで議論をする活動が設定されている。	・1時間ごとの学習課題は、「私たちの住む地球を眺めて」のようにタイトルが示され、その右横に1時間の学習課題が示されている。 ・単元のまとめに学習内容を確認するコーナーが設けられており、個人活動とグループ活動を組み合わせ、協働的な学びを促すことによって、身に付けた知識・技能をより深く習得させる工夫がある。	・1時間ごとの学習課題は、「地球の姿をながめよう」のようにタイトルが示され、その下に1時間の学習課題が示されている。 ・単元のまとめに学習内容を確認するコーナーが設けられており、グループで議論をする活動が設定されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・編や章の導入に「地理のミカタ」として、「見方・考え方」を示し、学習のまとめに「見方・考え方」を働かせる学習活動が設定されている。ページによっては、「見方・考え方」を働かせる視点の例を示したマークが示されている。 ・「世界の諸地域」の節ごとのまとめに、「見方・考え方」と資料を結びつけた「資料を活用する力をきたえよう」というページが設けられており、資料を活用した深い学びを促し、思考力・判断力等の育成に効果が期待できる。	・編や章の始めのページの下欄の「「見方×考え方」をはたらかそう」に、その編や章で働かせる「見方・考え方」が示されている。	・章や節の振り返りのページに働かせる「見方・考え方」が示されている。 ・地理的な見方・考え方を働かせて、自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりする特設ページ「アクティブ地理AL」が設けられており、生徒の深い学びを促し、思考力・判断力等の育成に効果が期待できる。	・編や章の導入ページや本文ページの見開きページごとに、その編や章で働かせる「見方・考え方」が示されている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・第1時と第2時の間に「～地方を～の視点で見よう」があり、探究課題や学習内容が示されている。 ・各単元において、探究課題の解決に向けて追究していくことが学習課題とともに表に整理されており、生徒の主体的な課題解決を促しやすい。	・見開きページの右下に「学習の視点」を示すとともに、学習の視点について説明されている。	・単元の導入の3ページ目の下部に「～地方の学習を見通そう」を設け、学習の視点を示し、4ページ目の上部に節の問いが記載されている。	・第1時と第2時の間に「節の問いを立てよう」があり、節の問いやキーワードが示されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・日本で起こる自然災害や防災・減災の取り組みについて記載されている。 ・特設ページでは、ハザードマップの読み取り方と公共交通機関が災害からの復興に果たす役割について記載されている。	・日本で起こる自然災害や災害から身を守るために、国や県、地域社会でなされている努力について記載されている。	・日本で起こる自然災害や防災・減災の取り組みについて記載されている。 ・特設ページでは、イラスト地図やハザードマップを使って、災害の危険性と防災情報の活用について記載されている。	・日本で起こる自然災害や防災・減災の取組について記載されている。 ・特設ページでは、地震の仕組みや南海トラフ巨大地震への備え、ハザードマップの使い方について記載されている。
観点5 内容の表現・表記	・写真、絵図、地図、図表・グラフ等の資料が、掲載されている。 ・フォント・グラフにユニバーサルデザインフォントが使用され、複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色が変わっている。	・写真、絵図、地図、図表・グラフ等の資料が、掲載されている。 ・フォント・グラフにユニバーサルデザインフォントが使用され、複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色が変わっている。	・写真、絵図、地図、図表・グラフ等の資料が、掲載されている。 ・フォント・グラフにユニバーサルデザインフォントが使用され、複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示されている。	・写真、絵図、地図、図表・グラフ等の資料が、掲載されている。 ・フォント・グラフにユニバーサルデザインフォントが使用され、複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色が変わっている。

	東書	教出	帝国	山川	日文	自由社	育鵬社	学び舎	令書
観点1 知識及び 技能の習 得	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に対 応した2段階の問いが 示されている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に対 応した2段階の問いが 示されている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に対 応した2段階の問いが 示されている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に対 応した学習活動が示さ れている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に対 応した2段階の問いが 示されている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に 対応した学習活動が示 されている。	・1時間の学習課題が 設定され、学習課題に 対応した2段階の振り返 る課題が示されている。	・1時間の学習課題が 設定されている。	・1時間の学習課題が 設定されている。
観点2 思考力、 判断力、 表現力等 の育成	・章の学習を振り返り、 自分の考えを文章にまと める活動が設定されてい る。節ごとの問いを解決 する場面が設定されてお り、生徒が学んだことを 整理しながら、探究課題 の解決に向け、思考を深 めやすい。	・章の学習を振り返り、 自分の考えを文章にまと める活動が設定されてい る。	・章の学習を振り返り、 自分の考えを文章にまと める活動が設定されてい る。節の学習を振り返 り、考えをまとめる活動 が設定されている。	・問いについて、異なる 4つの立場から自分の考 えを文章にまとめる活動 が設定されている。	・編の学習を振り返り、 自分の考えを文章にまと める場面が設定されてい る。	・どんな時代だったか について、200字以 内の作文を作る場面が 設定されている。	・どのような時代だっ たかを考え、その理由と 合わせてまとめ、それぞ れの考えをみんなで話 し合う場面が設定され ている。	・前の時代と比べなが ら、自分の考えを文章に まとめる場面が設定さ れている。	・政治・外交・文化・産 業の4つの視点から学 習を整理する場面が設 定されている。
観点3 主体的 に学習 に取り組 む工夫	・小学校の社会で習った 言葉、絵図と人物や歴 史的事象のイラストを用 いた年表や資料の読み取 り及び話し合い活動が示 されており、個人活動と グループ活動を往還的に 組み合わせ、協働的な学 びを促すことによって、 より主体的に学習に取り 組ませる工夫がある。	・絵図、写真、地図等 や、人物のイラストを用 いた年表及び資料の読み 取りが示されている。	・絵図、小学校で学んだ 人物と主な出来事のイラ ストを用いた年表等が示 され、話し合い活動や予 想を書く活動が示されて おり、話し合い等の協働 的な学びを促し、主体的 に学習に取り組ませる工 夫がある。	・これから学習する内容 が日本史と世界史に分け た年表で示され、章全体 に係る説明や歴史的事象 の写真や絵図が示されて いる。	・絵図、人物のイラスト を用いた年表や、写真、 地図等や資料の読み取 り、話し合い活動及び予 想を書く活動が示されて おり、話し合い等の協働 的な学びを促し、主体的 に学習に取り組ませる工 夫がある。	・絵図等とともに、小学 校で学んだ近世の人物の イラストが時代順に示さ れている。	・年表、絵図、人物等が 時代順で示され、問い等 や資料の読み取りが示さ れている。	・年表、写真、絵図が 示され、それぞれの歴 史的事象が関連する位 置が地図に示されてい る。	・絵図及び歴史的事象 を示した年表が示され、 政治・外交・文化・産業 の4つの視点で章の学習 課題が示されている。
観点4 内容の 構成・配 列・分量	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。	・各時代区分ごとにペー ジが設定されている。
観点5 内容の 表現・ 表記	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられ ている。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられて いる。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられて いる。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられて いる。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられて いる。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・円グラフでは、グラフ に文字や数値が入れら れている。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・ユニバーサルデザイン フォントが使用されて おり、円グラフ及び帯 グラフでは、グラフに 文字や数値が入れられ ている。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・円グラフ及び帯グラフ では、グラフに文字や 数値が入れられている。	・学習内容との関連付け がなされた絵図・写真等 が複数掲載されている。 ・円グラフでは、グラフ に文字や数値が入れら れている。

	東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
観点1 知識及び技能 の習得	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。さらに学習課題に対応した2段階の振り返りの学習活動を示している。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や絵図等が示されている。	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。さらに学習課題に対応した2段階の振り返りの学習活動を示している。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や絵図等が示されている。	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。さらに学習課題に対応した2段階の振り返りの学習活動を示している。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や絵図等が示されている。	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。さらに学習課題に対応した2段階の振り返りの学習活動を示している。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や絵図等が示されている。	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や文章が示されている。	・学習課題として、問いかけの形態で1時間の学習の見通しが示されている。さらに学習課題に対応した2段階の振り返りの学習活動を示している。 ・「対立と合意」と「効率と公正」の理解を促すためのページがあり、具体的な例や絵図等が示されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。また、個人活動やグループ活動で対話的な学びを促している。	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。また、ニュースの見方・考え方から課題を捉え直す工夫がある。	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。	・単元末のまとめにおいて、多面的・多角的に考察させるための具体例が示されている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・大単元の導入において、写真とともに問いが示されている。 ・「探究課題」では大きな問い、「探究のステップ」では各節の問いが示されており、学習の見通しが持ちやすい工夫がある。さらに単元末の振り返りでは、探究課題の解決が単元末のまとめにつながっている。	・大単元の導入において、写真とともに、写真の説明文と内容に関する項目のページ数が示されている。 ・学習の見通しとして、各節のテーマと問い、章全体の問いが示されており、学習の見通しがもちやすい工夫がある。	・大単元の導入において、写真が掲載されている。 ・吹き出しで、何を学習するのかが示されている。	・大単元の導入において、漫画が示されている。 ・章の問いでは、編で何を学習するのかが各節の問いの形で示されており、学習の見通しが持ちやすい工夫がある。	・大単元の導入において、イラストが掲載され、単元の内容についての問いが示されている。	・大単元の導入において、写真とともに説明や問いが示されている。 ・章で考えること、学ぶことについて示されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・社会参画への意識を高める工夫として、探究課題について、文章で記述する活動が設けられている。	・社会参画への意識を高める工夫として、吹き出しの意見に対する現在の考えを書かせる活動が設けられている。	・社会参画への意識を高める工夫として、まちの魅力を生かす予算案を作成する活動が設けられている。	・社会参画への意識を高める工夫として、模擬選挙の結果から、考えをまとめる活動が設けられている。	・社会参画への意識を高める工夫として、調べ学習を設定し、調べた内容について話し合い、班としての研究結果をまとめる活動が設けられている。	・社会参画への意識を高める工夫として、カードを整理し、テーマについてランキングを付ける活動が設けられている。
観点5 内容の表現・表記	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけたり、本文ページのレイアウトを統一し、資料の掲載部分に薄い色を付けたりして、本文との区別がされている	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけ、本文との区別がされ、本文ページのレイアウトが統一されている。	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけ、本文との区別がされ、本文ページのレイアウトが統一されている。	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけ、本文との区別がされ、本文ページのレイアウトが統一されている。	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけ、本文との区別がされ、本文ページのレイアウトが統一されている。	・学習のねらいに沿って、絵図や写真、地図、表等が掲載されている。 ・グラフには背景色や囲み線をつけ、本文との区別がされ、本文ページのレイアウトが統一されている。

	東書	帝国
観点1 知識及び技能 の習得	・地図の見方について、巻頭に「この地図帳の地図記号」が記載されるとともに、「この地図帳の活用方法」が設けられ、一般図や主題図等の見方や読み取り方、デジタルコンテンツの使い方といった地図の活用方法が記載されている。 ・「国土の地理的環境の例」では、「日本全体」で、近隣諸国を含む日本全体や各地方の地理的環境が記載されている。 ・「歴史的事象の例」は、「原子爆弾投下時の長崎市」「広島市中心部」などが記載されている。	・地図の見方について、巻頭に「この地図帳の凡例」が記載されるとともに、「この地図帳の使い方」が設けられ、一般図や鳥瞰図、主題図等の見方や使い方といった地図の活用方法が記載されている。 ・「国土の地理的環境の例」では、「資料のページ」で、近隣諸国を含む日本全体や各地方の地理的環境が記載されている。 ・「歴史的事象の例」は、「長崎市」「広島市中心部」などが記載されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・歴史、公民、SDGsとの関連を示すマークが設けられている。 ・「この地図帳でいっしょに“世界旅行”をする」キャラクターが設定され、様々な資料図を読み取るための具体的な指示が示されている。	・歴史、公民、SDGsとの関連を示すアイコンや「防災」「環境」「日本との結びつき」コーナーが設けられている。 ・社会科の学習内容を、地図を基に確認したり深めたりする問いのコーナー「地図で発見！」が設定されている。 ・ページ全体に関わる主題を示す「主題学習」のコーナーが設けられており、様々な資料図を多面的・多角的に分析することを促す問いかけがあることから問題解決の力の育成に効果が期待できる。
観点3 主体的に学習 に取り組む工夫	・世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料が掲載されている。 ・中国・四国地方の資料として、地形、降水量、本州と四国との間の自動車交通量等の資料が掲載されている。	・世界では州ごと、日本では地方ごとに、一般図の次に資料が掲載されている。 ・中国・四国地方の資料として、自然、降水量、中国・四国地方の交通と人口密度の変化等の資料に加え、農業に関する資料も掲載されており、身近な地域の課題を追究するための資料が豊富に掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・総ページ数は176ページ。 ・「世界全体」「日本全体」「世界や日本の地域ごと」「統計」「さくいん」に分類し、インデックスを5つに分類し色分けされている。 ・防災教育について掲載されている箇所がある。具体的には、倉敷市真備地区の例が掲載されている。	・総ページ数は198ページ。 ・「資料」「世界」「日本」「統計」「さくいん」でインデックスを5つに分類し、色分けされている。 ・防災教育について掲載されている箇所がある。具体的には、広島市周辺のイラストの地形図に水害の碑がある場所と過去に土砂災害があった地域が記載されている。また線状降水帯や南海トラフ等、呉市の生徒に関わりの深い内容が掲載されており、生徒の防災意識を高める効果が期待できる。 ・防災に関する資料図には【防災】マークが付けられている。
観点5 内容の表現・表記	・資料等の活用方法の示し方について、関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」が設けられている。 ・デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが記載されている。	・資料等の活用方法の示し方について、関連する資料の参照ページを示す「リンク」が設けられている。 ・デジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが記載されている。

	東書	大日本	学図	教出	啓林館	数研	日文
観点1 知識及び技能の習得	・章のはじめに、章とびらを設け、章の学習内容につながる問いかけとともに、学習を通して身に付けさせたい力が示されている。 ・学習のまとめりとともに必ず身に付けたい問題が取り扱われており、節末と巻末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章のはじめに、単元で学習する内容や下学年の学習内容との関連が示されている。 ・節末と巻末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章の前に、下学年の学習内容が示されており、章のはじめに、章とびらを設け、日常生活の中から学習内容につながる疑問が示されている。 ・節末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章のはじめに、章の学習内容に関連する既習の問題が示されており、章とびらを設け、章の学習内容と日常生活や社会との関連が示されている。 ・節末と巻末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章のはじめに、日常生活と関わる課題が示されており、各節のはじめに、その節で学習する内容に関わる課題が示されている。 ・章末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章の前に、次の章の学習に関連する下学年の学習内容や問題が示されている。 ・節末と巻末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。	・章の前に、次の章の学習内容に関連する下学年の学習内容や問題が示されている。 ・節末と巻末に、学習した内容のページが示され、振り返ることができるようにしている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開があり、導入で多様な表現ができる工夫がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開があり、導入で多様な表現ができる工夫がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開があり、導入で多様な表現ができる工夫がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開があり、導入で多様な表現ができる工夫がある。	・説明したり、話し合ったりする問題が複数取り扱われている。 ・問題発見・解決の過程における数学的な見方・考え方を働かせる展開がある。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されており学習の流れの中に見通しを立てる場面が示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が豊富に提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が豊富に提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が豊富に提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されており学習の流れの中に見通しを立てる場面が示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が豊富に提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されており学習の流れの中に見通しを立てる場面が示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されている。	・日常生活や社会とのかかわりで取り扱われている題材が豊富に提示されている。 ・問題解決的な学習に対する振り返りの工夫として、振り返りの視点、ポイントが示されており学習の流れの中に見通しを立てる場面が示されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。	・単元や資料の構成・配列・分量は適切である。
観点5 内容の表現・表記	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。	・イラスト・写真、デジタルコンテンツが豊富に提示されている。

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
観点1 知識及び技能の習得	・各単元の導入部に「これまでに学んだこと」、関連する内容の近くに「これまでに学んだこと」「(教科名)で学んだこと」という枠組が設けられている。 ・単元の中や単元末に補充的な問題が設定されている。	・各単元の導入部に「これまでに学習したこと」、関連する内容の横に「思い出そう」「つながる」という枠組が設けられている。 ・単元の中や単元末に補充的な問題が設定されている。	・単元の導入部に「ふり返ろう・つなげよう」、関連する内容の近くに「つながり」という枠組が設けられている。 ・単元末や巻末に補充的な問題が設定されている。	・各単元の導入部に「学んでいくこと」、関連する内容の近くに「思い出そう」という枠組が設けられている。 ・単元の中や単元末に補充的な問題が設定されている。	・章の導入部や関連する内容の近くに「つながる学び」、各学年の関連する内容の近くに「算数・数学と関連」という枠組が設けられている。 ・単元の中や単元末に補充的な問題が設定されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・単元の第1章・実験における問いの設定までの流れとして、漫画形式で生徒同士の会話や関連する実験が示され、課題設定へとつながられている。生徒が感じた疑問から課題設定に至るまでの思考の流れが具体的にイメージしやすい。	・単元の第1章・実験における問いの設定までの流れとして、身近な場面の写真や、既習事項をまとめたコーナーが示され、本文記述から課題設定へとつながられている。	・単元の第1章・実験における問いの設定までの流れとして、「この時間の課題」や関連する実験が示され、生徒等の吹き出しから課題設定へとつながられている。	・単元の第1章・実験における問いの設定までの流れとして、「これまでの学習」「学習前の私」のコーナーや関連する実験が示され、本文記述から課題設定へとつながられている。	・単元の第1章・実験における問いの設定までの流れとして、「つながる学び」のコーナーや関連する実験が示され、本文記述から課題設定へとつながられている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・各学年の巻頭に「「探究」の流れを確認しよう」のページが設けられ、探究の過程が示されている。 ・問題発見から活用までの一連の流れが漫画形式で描かれており、探究の過程全体をイメージしやすい。 ・各学年の巻頭に「考察はここをおさえよう」で考察のポイントがフローチャートで示されており、生徒が探究の過程全体を振り返りながら結論を導きやすい。	・各学年の巻頭や第1学年の巻末「探究の進め方」のページが設けられ、探究の過程が示されている。	・各学年の巻頭に「理路整然一智に働けば役に立つ」のページが設けられ、探究の過程が示されている。 ・気づきから次の気づきまでの各段階が構造的に整理され、探究の過程全体を俯瞰的に捉えやすい。	・各学年の巻頭に「探究の進め方 さあ、探究を始めよう！」のページが設けられ、探究の過程が示されている。 ・疑問から考察までの各段階が具体的な観察、実験を例に示されており、探究の過程全体をイメージしやすい。	・各学年の巻頭に「探究とは」のコーナーが設けられ、探究の過程が示されている。 ・疑問から考察までの一連の流れが1つの観察、実験を例に漫画形式で描かれており、探究の過程全体をイメージしやすい。
観点4 内容の構成・配列・分量	・ものづくりが各学年に掲載されている。 ・補充的な観察、実験や、発展的な学習が各学年に掲載されている。	・ものづくりが各学年に掲載されている。 ・補充的な観察、実験や、発展的な学習が各学年に掲載されている。	・ものづくりが掲載されている。 ・補充的な観察、実験や、発展的な学習が各学年に掲載されている。	・ものづくりが各学年に掲載されている。 ・補充的な観察、実験や、発展的な学習が各学年に掲載されている。	・ものづくりが各学年に掲載されている。 ・補充的な観察、実験や、発展的な学習が各学年に掲載されている。
観点5 内容の表現・表記	・巻頭では、生徒に疑問や予想をもつことを促す見開きの写真が掲載されている。また、「科学の本だな」のコーナーで複数の書籍が紹介され、学習したことを深めることに役立つ。 ・巻頭・巻末にデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。	・巻頭では、生徒に科学への興味をもたせる見開きの写真とともに、大人からのメッセージが掲載されている。学習したことがどのように社会に生かされているかイメージしやすい。 ・巻頭・巻末にデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。	・巻頭では、見開きの大きな写真が掲載されている。また、「なぜ理科を学ぶの？」のコーナーで学習の目的が漫画で示されている。 ・巻末にデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。	・巻頭では、目次等とともに国内の風景写真が見開きで掲載されている。また、「科学の扉」として大人からのメッセージが掲載されている。学習したことがどのように社会に生かされているかイメージしやすい。 ・巻頭・巻末にデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。	・巻頭では、生徒に探究することを促すメッセージとともに見開きの写真が掲載されている。また、「ICTの活用」のコーナーで理科の授業におけるICTの活用方法が紹介されている。 ・巻頭・巻末にデジタルコンテンツが二次元コードで示されている。

	教出	教芸
観点1 知識及び技能の習得	・歌唱分野における知識及び技能に関する記載として、「Sing! Sing!」が設けられ、第1学年に、「歌うための準備」「言葉の発音について」「変声と混声合唱」、第2・3学年上に、「歌うための準備」が記載されている。 ・教材ページの端に縦書きで題材名、教材名の下に活動ポイントが示されている。	・歌唱分野における知識及び技能に関する記載として、「My Voice!」が設けられ、第1学年に、「自分の歌声を見つけよう」、第2・3学年上に、「自分の思いを歌声にのせよう」「鼻濁音」、第2・3学年下に、「豊かな歌声で、気持ちをこめて歌おう」が、全学年に渡って記載されており、発達段階に応じた継続的な指導ができる。 ・教材ページの端に縦書きで学習目標、教材名の下に活動文が示されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・創作分野における音楽表現を創意工夫させるための工夫として、6つの活動が設定され、活動4から活動6は、活動1から活動3の内容を書き込む欄が設けられている。また、キャラクターの吹き出しで、活動の指示が示されている。	・創作分野における音楽表現を創意工夫せるための工夫として、5つの活動が設定され、活動③ではワークシートが示されている。また、キャラクターの吹き出しで、考える観点や工夫の仕方が示されており、どの生徒にも分かりやすい。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・興味・関心を高めるための工夫として、巻頭には、演奏家（ピアニスト、笙奏者、指揮者）の言葉と写真が掲載されている。 ・「作者の思いにふれる」として、それぞれの学年で学習する曲の作曲家に関する言葉と自筆譜が掲載されている。	・興味・関心を高めるための工夫として、巻頭には、俳優・歌手、歌舞伎役者、ピアニストの言葉と関連する写真が掲載されている。 ・「音楽って何だろう」として、宇宙飛行士、人類進化学者、アートディレクターといった人たちからの言葉と関連する写真が掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・領域・分野については、全学年において「歌唱」「鑑賞」「創作」の順に配列されている。 ・資料等として「Sing! Sing!」（第1学年及び第2・3学年上に掲載）及び「Let's Try!」については、関連する教材に付帯して配列されている。	・領域・分野については、第1学年において「歌唱」「鑑賞」の順に配列されており、「創作」は関連する教材の後ろに、「鑑賞」に関連する「歌唱」の教材は後に配列されている。第2・3学年上及び第2・3学年下においては「歌唱」「創作」「鑑賞」の順に配列されており、「鑑賞」に関連する「歌唱」の教材は後に配列されている。 ・資料等として「発声」「リズムで楽しもう」（第1学年及び第2・3学年上に掲載）「指揮」については、関連する教材に付帯して配列されている。
観点5 内容の表現・表記	・デジタルコンテンツの具体例として、二次元コードが掲載されており、範唱に合わせた風景の映像と歌詞の動画が掲載されているページにアクセスできる。また、ワークシートがダウンロードできるページに、アクセスできる。	・デジタルコンテンツの具体例として、二次元コードが掲載されており、範唱に合わせた風景の映像と歌詞の動画が掲載されているページや、パート別とカラピアノの音源が掲載されているページ、楽曲に関連する説明と、それぞれの旋律の一部の音源を掲載しているページにアクセスできる。また、ワークシートがダウンロードできるページに、アクセスできる。これらの豊富な資料で、学習が深まるような工夫がある。

	教出	教芸
観点1 知識及び技能の習得	・リコーダーにおける知識及び技能に関して、リコーダーの特徴、歴史に関する記載、奏法、身体の使い方に関する記載、演奏する順番が記載されている。	・リコーダーにおける知識及び技能に関して、リコーダーの特徴、歴史に関する記載、奏法、身体の使い方などに関する記載、演奏する順番が記載されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・音楽的な見方・考え方を働かせる工夫として、音楽表現を創意工夫する学習において、音楽を形づくっている要素に着目して、表現を工夫させる流れになっている。また、楽譜や演奏の例を示すとともに、構成を書き込む表が設けられている。	・音楽的な見方・考え方を働かせる工夫として、音楽表現を創意工夫する学習において、音楽を形づくっている要素に着目して、表現を工夫させる流れになっている。また、どのように演奏したいかを考える際の、注目するポイントとして、音楽を形づくっている要素を示し、吹き出しで考える観点が例示されており、どの生徒にも分かりやすい。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・資料として、打楽器、リコーダー運指表、ギター&キーボードコード表、いろいろな用語、記号に関する、写真やイラスト、表や楽譜が掲載されている。 ・巻頭には、世界のいろいろな楽器の演奏写真や演奏者名や兵庫県、佐賀県、宮城県に設置されているストリート・ピアノの写真が掲載されている。	・資料として、日本の伝統音楽の楽器編成、バンドの写真とスコア（楽譜）の一部、伝統の枠を超えて活躍する和楽器、リコーダーの運指表、ギター／キーボードコード表、楽器の図鑑のイラストや写真、音楽の約束として音符・休符・記号・用語の表や楽譜が掲載されている。また、和楽器の音楽として、太鼓と箏について、演奏している写真、写真の説明、「中学生にインタビュー」が掲載されている。 ・巻頭には、打楽器奏者の写真と言葉、ドラムを演奏している写真、また、さまざまな楽器の演奏写真とともに音楽・文芸批評家の言葉と写真が掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・内容の構成として、リコーダー、篠笛、尺八、ギター、箏、三味線、太鼓、合奏（アンサンブル）、名曲旋律集、資料が掲載されている。	・内容の構成として、リコーダー、ギター、箏、三味線、太鼓、篠笛、尺八、打楽器、アンサンブル曲、楽器でMe l o d y、資料が掲載されている。その豊富な内容は、楽器の特徴などの知識や、表現活動をするための技能を確実に習得することにつながる。
観点5 内容の表現・表記	・リコーダーについて、姿勢とかまえ方が、アルト・リコーダーとソプラノ・リコーダーの写真で示されている。	・リコーダーについて、姿勢と構え方が、口元と指のイラストやアルト・リコーダーを演奏する正面、側面の写真で示されている。また、口元のイラストでは、マウスピースのくわえ方の悪い例が示されており、生徒のつまずきを想定した内容が掲載されている。

	開隆堂	光村	日文
観点1 知識及び技能の習得	・造形的な視点について、キャラクターの吹き出しにコメントが示されていたり、生徒作品の「作者のことば」に、表現意図とともに示されたりしている。	・造形的な視点について、鑑賞と表現の活動のはじめや「POINT」に示されていたり、生徒作品の「作者の言葉」に、表現意図とともに示されたりしている。	・造形的な視点について、作品や写真の吹き出しに、「造形的な視点」が示されていたり、生徒作品の「作者の言葉」に、表現意図とともに示されたりしている。また「鑑賞の入り口」では問いが提示されていたり、主文の中では、造形的な視点を基に思考することを促す文が示されたりしている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・キャラクターの吹き出しで、表現と鑑賞のつながりが示されている。また、「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」が表記され、相互に関連した学習の流れが示されており、「表現」と「鑑賞」について、相互の関連を図りやすい。 ・発想・構想に向けて、ワークシートやアイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉が示されている。	・矢印で表現と鑑賞の学習活動のつながりが示されている。また、「表現」と「鑑賞」のアイコンが表記され、相互に関連した学習の流れが示されており、「表現」と「鑑賞」について、相互の関連を図りやすい。 ・発想・構想に向けて、アイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉が示されている。	・表現と鑑賞を関連させた学習の流れの例が示されている。 ・発想・構想に向けて、「表現のヒント」、アイデアスケッチ、生徒作品や作者の言葉、「造形的な視点」が示されている。「表現のヒント」で表現活動における発想・構想の手立てや、技能の方法が提示されることで、発想や構想する力を育むことが期待できる。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・作品全体が見開きや折り曲げの大型図版で掲載され、作品の一部が拡大されたり原寸大の図版で示されたりしている。 ・複数の題材に、生活や社会とのつながりや美術の働きについて考えるきっかけとなる写真等が掲載されている。	・作品全体が見開きや折り曲げの大型図版で掲載され、作品の一部や全体を拡大したり、紙質とページの大きさを変えたりして示されている。日本の絵画の紹介ページでは、実感を伴う材質感のある用紙を使用しているため、実物に近い感覚で鑑賞でき、生徒の主体的な学習を促すことが期待できる。 ・複数の題材に、生活や社会とのつながりや美術の役割について考えるきっかけとなる写真等が掲載されている。また、「デザインや工芸など」のはじめに特設ページが設けられ、生活の中の美術との関わりが具体的に示されている。	・作品全体が見開きや折り曲げの大型図版で掲載され、折って立てられるようにしたり、作品の一部や全体が原寸大の図版で示されたりしている。 ・複数の題材に、生活や社会とのつながりや美術の役割について考えるきっかけとなる写真等が掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・題材等が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野と、「学びの資料」に分けて配列されている。	・題材等が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野と、「学習を支える資料」に分けて配列されている。また、美術の学びを支える資料が別冊にまとめられている。	・題材等が「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の分野と、「学習を支える資料」に分けて配列されている。
観点5 内容の表現・表記	・各題材の上の「CONTENTS」に二次元コードが示されている。また、巻末資料の一部に、二次元コードが示されている。全ての題材において、ワークシートをダウンロードすることができ、学習の流れがイメージしやすい。	・題材名の横や、鑑賞中心の題材等に二次元コードが示されている。また、表現の各題材において、見開きページ右上部に、別冊「美術1 資料 つくってみよう見てみよう」や巻末資料「学習を支える資料一覧」の二次元コードの関連ページが示されている。鑑賞中心の題材における二次元コードから、作品を拡大したり書き込んだりできる「書き込みツール&高精細画像」等にアクセスでき、鑑賞の視点を豊かにすることが期待できる。	・各題材において「学びのはじめに」に二次元コードが示されたり、「表現のヒント」等に二次元コードが示されたりしている。また、巻末資料「学習を支える資料」に、二次元コードが示されている。

	東書	大日本	大修館	学研
観点1 知識及び技能の習得	・章の扉で「この章で学習すること」が示されているとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」が示されている。 ・「見つける」として、日常経験や小学校で学習したことを基にした課題が提示され、「学習課題」において、本時の課題が設定されており、生徒が学習内容を自分事として捉えやすく、知識及び技能の習得に効果的である。	・学年扉・章扉で「この章で学習すること」が示されているとともに、「小学校で学習したこと」「中学校で学習すること」及び「高校で学習すること」が示されている。 ・「学習のねらい」として、学習を通して解決する課題が提示され、「つかもう」において、学習の導入が設定されている。	・章とびらで、「この章で学習すること」が示されているとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」が示されている。 ・「課題をつかむ」として、これまでの経験や学習を基にした課題が提示され、「きょうの学習」において、本時の学習内容が設定されており、生徒が学習内容を自分事として捉えやすく、知識及び技能の習得に効果的である。	・章の扉で、その章の学習内容が示されているとともに、「小学校で学習したこと」及び「高校で学習すること」が示されている。 ・「ウォームアップ」として、事例や情報などの問いから課題が提示され、「学習の課題」で、1時間の学習を通して身に付けることや、考えたり、判断したりすることが提示されており、生徒が学習の見通しを持って取り組むことができるよう工夫している。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・「㊦」として、思考するための発問が設定されているとともに、「活用する」として、習得した知識及び技能を活用し、思考する活動が設定されている。 ・「広げる」として、学習したことを自分の生活に当てはめたり、調べたりする活動が設定されている。 ・事例が挙げられており、生徒が具体的な場면을イメージしながら、学習したことを活用して考えることができ、生徒の思考を促しやすい。	・「つかもう」として、学習の初めの発問が設定されているとともに、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」及び「活用して深めよう」として、学習したことを生かして思考する活動が設定されている。 ・章末に「学びを活かそう」として、その章で学習したことを生活に活かすための課題が設定されている。	・「課題をつかむ」として、気づきや思考を促す発問が設定されている。 ・「章のまとめ」において、これまで学習したことをもとに、筋道を立てて説明する課題が設定されている。	・「エクササイズ」として、学習した知識及び技能や資料などの情報を基に、思考したり、話し合ったりする活動が設定されている。 ・1時間の最後に、「学びを生かす」として、身に付けた知識及び技能を活用する課題や活動が設定されている。 ・事例が挙げられており、生徒が具体的な場면을イメージしながら、学習したことを活用して考えることができ、生徒の思考を促しやすい。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・「読み物」として、各学習内容ごとに興味・関心を高めるための資料が複数掲載されている。	・「トピックス」として、各学習内容ごとに興味・関心を高めるための資料が複数掲載されている。	・「コラム」として、各学習内容ごとに興味・関心を高めるための資料が複数掲載されている。	・「コラム」として、各学習内容ごとに興味・関心を高めるための資料が複数掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・「発展」として、「学習指導要領に示されていない内容ですが、必要に応じて学習しましょう。」と巻頭に示されている。 ・本編と関連させた発展的な内容の資料が主に章末に豊富に掲載されており、学習したことを広げたり深めたりしやすいよう工夫されている。	・「発展」として、「学習指導要領には示されていない発展的な学習内容です。興味・関心に応じて学習しましょう。」と巻頭に示されている。 ・本編と関連させた発展的な内容の資料が単元内に掲載されており、生徒が授業で学んだ学習内容と関連付けて考えやすい。 ・主に章末と「トピックス」に発展的な資料が掲載されている。	・「発展」として、「学習指導要領の範囲外の内容です。先生の指示にしたがって学習しましょう。」と巻頭に示されている。 ・本編と関連させた発展的な内容の資料が章末の「特集資料」に掲載されている。	・「発展」として、「学習指導要領の範囲外で、興味・関心などに応じて取り組む「発展的な学習内容」と巻頭に示されている。 ・主に章末の「探究しようよ！」で発展的な活動が設定されている。
観点5 内容の表現・表記	・「キーワード」、「ポイント」といった様々な種類のマークが示されている。	・「資料」、「トピックス」といった様々な種類のマークが示されている。	・「実習」、「コラム」といった様々な種類のマークが示されている。	・「キーワード」、「技能」といった様々な種類のマークが示されている。

	東書	教図	開隆堂
観点1 知識及び技 能の習得	・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」の囲み、問題解決に取り組むときに必要となる基礎的な技能が「テックラボ」に掲載されている。 ・技術の概念の理解を促すために、「技術の最適化」という項目があり、これまでの学習を振り返り、自分の問題解決と社会における問題解決の共通点と違いについて考えることを促す記述や、生徒のつぶやき等が掲載されている。	・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「ポイント」マークが掲載されている。 ・技術の概念の理解を促すために、「技術のプラス面とマイナス面」という項目があり、これまでの学習を振り返り、技術の役割や影響について考えたり、技術のプラス面とマイナス面を見極めたりすることを促す記述や、生徒のつぶやき等が掲載されている。	・基礎的・基本的な知識及び技能のポイントとして、「作業のポイント」の囲み、学習の参考になる内容や資料・解説として、「参考」マークが掲載されている。 ・技術の概念の理解を促すために、各内容において技術の学習を振り返らせたり、技術の学習と社会とのつながりを考えさせたりする項目があり、これまでの学習を具体的に振り返ったり、具体的な制約条件等をもとに技術の見方・考え方について確認したりすることを促す記述や図等が掲載されており、技術の概念の理解を促しやすい。
観点2 思考力、判 断力、表現 力等の育成	・各内容の冒頭「技術の見方・考え方」において、身近な技術の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫や、技術を最適化する際に着目する視点が示されており、各内容で繰り返し見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。 ・実習例を「問題解決例」として取り上げ、そのうち、技術による問題の解決の学習過程の具体例が掲載されているものがある。	・各内容の冒頭において、生活や社会を支える技術の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫が示されている。 ・実習例を「題材例」として取り上げ、そのうち、技術による問題の解決の学習過程の具体例が掲載されているものがある。	・各内容の冒頭において、製品の進歩の具体例を取り上げるとともに、技術に込められた工夫や、技術を最適化する際に着目する視点が示されており、各内容で繰り返し見方・考え方を働かせることができるように工夫されている。また、技術の最適化の具体例が示されており、技術の見方・考え方について、生徒がイメージしやすい。 ・実習例を「実習例」として取り上げ、技術による問題の解決の学習過程の具体例が掲載されている。また、問題解決の手順を示した見開きページが設けてあり、「実習例」も同様の手順で示すことで、生徒が問題解決の具体的な流れをイメージしやすい。
観点3 主体的に学習 に取り組む工 夫	・各内容とも、項目ごとに、「目標」「学習課題」マークを付け、目標及び学習課題が示されるとともに、「キーワード」マークを付け、関連する語句が示されている。 ・社会で開発されている新しい技術について具体例が挙げられるとともに、これまでの学習を踏まえ、これからの社会や生活で技術を改良、応用するとき、どのようなことを考えていきたいか考えさせるためのワークシートが掲載されている。	・各内容とも、項目ごとに、「めあて」マークを付け、目標が示されるとともに、「キーワード」マークを付け、関連する語句が示されている。 ・社会で開発されている新しい技術について具体例が挙げられるとともに、技術の上手な活用方法や、新しく開発したい技術、これからどのように技術と向き合っていきたいか考えさせるためのワークシートが掲載されている。	・各内容とも、項目ごとに、「学習の目標」の囲みと「学習課題」マークが設けられ、目標及び学習課題が示されている。 ・社会で開発されている新しい技術について具体例が挙げられるとともに、新しい技術について調べ、それがどのようなものなのか、どのような使い方が考えられるか、どうやったら広く活用されるようになるか考えさせるための記述が掲載されている。
観点4 内容の構成・ 配列・分量	・実践的・体験的な学習の具体例として、問題解決に向けた技術に関する具体例が示されている。	・実践的・体験的な学習の具体例として、問題解決に向けた技術に関する具体例が示されている。	・実践的・体験的な学習の具体例として、問題解決に向けた技術に関する具体例が示されている。
観点5 内容の表現・ 表記	・中学校及び小学校の各教科等の学習内容との関連については、「リンク」マークを用いて、教科、内容等が示されている。 ・「QRコード」が掲載され、デジタルコンテンツを活用して学習することができるようにしている。	・中学校及び小学校の各教科等の学習内容との関連については、「関連」マークを用いて、教科が示されている。 ・「QRコード」が掲載され、デジタルコンテンツを活用して学習することができるようにしている。	・中学校の各教科等の学習内容との関連については、「他教科」マークを用いて、小学校の各教科等の学習内容との関連については、「小学校」マークを用いて、教科、内容等が示されている。 ・「QRコード」が掲載され、デジタルコンテンツを活用して学習することができるようにしている。

	東書	教図	開隆堂
観点1 知識及び技能の習得	・「実習を楽しく安全に進めよう」が巻頭に掲載され、食物アレルギーや感染症予防にも気を付けて、安全に実習に取り組むためのポイントがまとめられている。 ・学習指導要領「B 衣食住の生活」の「(3) 日常食の調理と地域の食文化」に対応した調理実習例が掲載されている。また、調理手順が横方向で示されており、調理操作が具体的で分かりやすく、調理の流れや方法を理解しやすい。さらに、魚、肉、野菜の調理には、組み合わせる料理の例が作り方とともに同ページに掲載されており、一食分の献立としてイメージしやすく、調理につなげる工夫がある。	・「実習は安全に取り組もう！」が巻頭に掲載され、けがや衛生面に気を付けて、安全に実習に取り組むためのポイントがまとめられている。また、実習の注意点についてのワークが設定されている。 ・学習指導要領「B 衣食住の生活」の「(3) 日常食の調理と地域の食文化」に対応した調理実習例が掲載されている。また、調理手順が縦方向で示されている。さらに、魚と肉の調理には、「私のアレンジ」が同ページに掲載されており、調理の工夫について知ることができる。	・「楽しく安全に実習しよう」が巻頭に掲載され、実習前、実習中、実習後のそれぞれのポイントがまとめられている。 ・学習指導要領「B 衣食住の生活」の「(3) 日常食の調理と地域の食文化」に対応した調理実習例が掲載されている。また、調理手順が横方向で示されており、調理操作が具体的で、調理の流れや方法を理解しやすい。さらに、魚と肉の調理には、組み合わせ例が作り方とともに同ページに掲載されており、一食分の献立としてイメージしやすく、調理につなげる工夫がある。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いが掲載されている。 ・「生活の課題と実践の進め方」が掲載され、学習の流れが示されている。また、「まとめと発表の仕方」では、レポート、ポスター、新聞形式、プレゼンテーションソフトウェア等の活用方法が示され、次ページからは生徒の作品例が説明や発表例とともに掲載されており、まとめ方のイメージをもたせやすい。	・章末の「学習のふり返り」では、思考・判断・表現に関わる問いが掲載されている。 ・「生活の課題と実践」の学習の流れ」が掲載され、学習の流れが示されている。	・編末の「学習のまとめ」では、思考・判断・表現に関わる問いが掲載されている。 ・「生活の課題と実践の進め方」が掲載され、学習の流れが示されている。また、まとめ・発表では、新聞やポスター、レポート、スライドやムービー等の活用方法や生徒の作品例も掲載されている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・「生活に生かそう」「まとめよう」で学習を振り返ったり、次の学習に生かしたりする活動が設定されている。「生活に生かそう」「まとめよう」は節の終わりに設定されており、学習した内容を主体的に実践するための工夫がある。 ・「生活の営みに係る見方・考え方」の1つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、各編にその内容が掲載されている。	・「ふり返る」でそのページの知識・技能が身に付いたか生徒が自己評価する欄が設定されている。 ・「生活の営みに係る見方・考え方」の1つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、消費生活と環境問題とのつながりが取り上げられ、関連する写真や資料にSDGsアイコンを用いて示されている。	・「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」で生活の中の具体的なできごとから課題を考える活動が設定されている。 ・生活の営みに係る見方・考え方の1つの視点である「持続可能な社会の構築」においては、「ガイダンス」で詳しく説明され、各編にその内容が掲載されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・発展的な学習の扱いとして、発展のマークが付されている。説明として、「学習指導要領に示されていない内容ですが、必要に応じて学習しましょう。」と記載されている。 ・各編の導入ページで、「小学校家庭科で学んだこと」がキーワードで示されている。小学校の他教科等の学習内容との関連については「リンク」マークで示され、小学校で学んだことが示されている。	・発展的な学習の扱いとして、発展のマークが付されている。説明として、「学習指導要領には示されていない内容ですが、必要に応じて取り組んでみましょう。」と記載されている。 ・各編の導入ページ等で、小学校家庭科の学習内容とのつながりが「関連」マークで示されている。	・発展的な学習の扱いとして、発展のマークが付されている。説明として、「発展的な学習の内容（学習指導要領に示されているものではなく、一律に学習しなければならない内容ではない。）」と記載されている。 ・各内容の冒頭に、「小学校での学び」が設けられ、小学校家庭科での学習内容が示されている。
観点5 内容の表現・表記	・食品群別摂取量の目安が実物大の写真で示されている。また、1日に必要な食品の種類と概量の例、1日分の食事の例が写真で示されている。（朝食・昼食・夕食） ・動画、シミュレーションなどにつながる二次元コードが表示されている。	・食品群別摂取量の目安がほぼ原寸大の写真で示されている。また、1日の食事献立の例が写真で、食品群ごとの概量の重量が表で示されている。（朝食・昼食・間食・夕食） ・ワーク、予習・復習に活用できる動画などにつながる二次元コードが表示されている。	・食品群別摂取量の目安が実物大の写真で示されている。また、1日に取りたい食事量の例が写真で示されている。（朝食・昼食・夕食） ・資料や動画などにつながる二次元コードが表示されている。

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
観点1 知識及び技能 の習得	・目次に各単元の目標が示されている。また、単元ごとに目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。	・単元内のコーナーごとに目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。	・目次に各単元の目標が示されている。また、単元ごとに目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。	・単元ごとに目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。	・目次に各単元の目標が示されている。また、単元ごとに関連する領域別の目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。	・単元ごとに関連する目標が示されている。 ・文法事項等に繰り返し触れる機会が設定されており、定着を図ることができる。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。また、終末の活動に向けた学習過程において、具体例が示されており、生徒がイメージをもって取り組みやすい。さらに、導入で動画視聴によるコミュニケーションの目的・場面・状況等を把握する活動が設定されており、明確に相手意識や目的意識をもたせやすく、思考力、判断力、表現力等の育成に高い効果が期待できる。	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。また、終末の活動に向けた学習過程において、具体例が示されており、生徒がイメージをもって取り組みやすい。さらに、終末に、言語面・内容面について学習のまとめや振り返りを記述させるコーナーがあり、思考力、判断力、表現力等の育成に高い効果が期待できる。	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。	・複数単元の学習を踏まえ、複数の領域を関連付けた統合的な言語活動が設定されている。また、終末の活動に向けた学習過程において、具体例が示されており、生徒がイメージをもって取り組みやすい。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・各単元末において、自分の考えを書かせるとともに4段階の振り返りが設定されている。 ・複数単元終了後に、4段階の振り返りや、「CAN-DO リスト」で領域ごとに4段階の振り返りが設定されている。	・各単元内において、3段階の振り返りが設定されている。 ・複数単元終了後に、3項目について3段階の振り返りが設定されている。	・各単元末において、2項目について振り返りが設定されている。 ・複数単元終了後に、2項目について振り返りが設定されている。	・各単元末において、「内容理解」と「活動」について4段階の振り返りが設定されている。 ・複数単元終了後に、目標の達成度について4段階の振り返りが設定されている。	・各単元末において、2項目について振り返りが設定されている。 ・複数単元終了後に、4段階の振り返りが設定されている。	・各単元末において、4段階の振り返りが設定されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。また、音声と文字との関係を段階的に学習する活動が設定されており、単語を読んだり、書いたりする基礎的な力を付ける工夫がされている。	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。また、音声と文字との関係を段階的に学習する活動が設定されており、単語を読んだり、書いたりする基礎的な力を付ける工夫がされている。	・導入期において、小学校外国語との接続を図った単元等が配列されている。また、音声と文字との関係を段階的に学習する活動が設定されており、単語を読んだり、書いたりする基礎的な力を付ける工夫がされている。
観点5 内容の表現・表記	・学年ごとに領域別学習到達目標が1文で設定されている。また、当該学年の「Stage」ごとに領域別学習到達目標が1文で示されるとともに、振り返りが4段階で設定されている。そのため、生徒が学びのつながりを意識し、一貫した目標をもって学習に取り組むやすい。	・当該学年の領域別学習到達目標が設定されている。また、単元ごとに領域別学習到達目標が示されるとともに、各単元に設定した「できること」について、領域別の振り返りが3段階で設定されている。	・学年ごとに領域別学習到達目標が1文で設定されている。また、当該学年の領域別学習到達目標が示されるとともに、当該学年でできるようになったことについて、領域別の振り返りが4段階で設定されている。そのため、生徒が学びのつながりを意識し、一貫した目標をもって学習に取り組むやすい。	・学年ごとに領域別学習到達目標が設定されている。また、当該学年学習到達目標について、領域別の振り返りが4段階で設定されている。さらに、巻頭において、生徒自身が設定した目標について、振り返りが4段階で設定されている。そのため、生徒が学びのつながりを意識し、一貫した目標をもって学習に取り組むやすい。	・当該学年及び次学年の学習到達目標が1文で設定されている。また、当該学年の領域別学習到達目標が設定されている。さらに、「You Can Do It!」ごとに、学習到達目標が1文で示され、領域別の振り返りが4段階で設定されている。また、学年末の自己評価として、領域別の振り返りが4段階で設定されている。そのため、生徒が学びのつながりを意識し、一貫した目標をもって学習に取り組むやすい。	・当該学年の領域別学習到達目標が設定されている。また、当該学年の学習到達目標について、領域別の振り返りが4段階で設定されている。

	東書	教出	光村	日文	学研	あか図	日科
観点1 知識及び技能の習得	・学習の流れ等が「①気づく」「②考える」「③深める・広げる」の3つでイラストや吹き出しとともに示されている。	・学習の流れ等が「問題に気づく」「考え、話し合う」「深める」「つなぐ」の4つでイラストや吹き出しとともに示されている。	・手引きが「①考えよう」「②見方を変えて」「③つなげよう」の3つで示されている。	・学習の流れ等が「①気づく」「②考える・議論する・深める」「③見つめる・生かす」の3つで示され、ミニ教材により3つの具体的な学びの見通しをもつことができるように工夫されている。	・学習の流れ等が「1 見つけよう」「2 考えよう」「3 話し合おう」「4 生き方につなげよう」の4つでイラストや吹き出しとともに示されている。	・道徳科について、「自分を見つめて考える」「いろいろな見方で考える」「自分の生き方を考える」の3つでイラストとともに示されている。	・道徳科について、「自分の考え、意見を言おう」「友達の考え、意見をしっかり聞こう」「自分と違う考え、意見も認め、きちんと聞こう」の3つがイラストとともに示されている。
観点2 思考力、判断力、表現力等の育成	・巻頭「道徳の授業はこんな時間に」の中に、話し合う学習活動や話し合いのポイントが示されている。 ・教材やコラム等に記載されている発問等について、書く欄が設けられている。	・巻頭「さあ、道徳を始めよう！」の中に、話し合う学習活動や話し合いのポイントが示されている。 ・教材やコラム等に記載されている発問等について、書く欄が設けられている。	・第1教材「道徳の学習を始めよう！」の中に、話し合う学習活動や話し合いのポイントが示されている。 ・教材の終わり等に記載されている発問等について、書く欄が設けられている。	・巻頭「道徳科での学びを始めよう！」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントや工夫例が示されている。 ・別冊「道徳ノート」に、自分の考えや友達の意見等を書く欄が設けられている	・巻頭「道徳科で学ぶこと考えること」の中に、話し合う学習活動や話し合いのポイントが示されている。 ・教材の終わりの「深めよう」等に記載されている発問等について、書く欄が設けられている。	・巻頭「道徳の時間は、「自分を見つめ、考え、生きる」時間」の中に、話し合う学習活動や話し合いのポイントが示されている。 ・巻末に、授業での取組や心に残った授業等を記入するページが設けられている。	・巻頭「クラスの人々と「道徳授業」を創り出そう」の中に、話し合う学習活動、話し合いのポイントや具体例が示されている。 ・学びの途中で考えたことや教材の終わり等に記載されている発問等について、書く欄が設けられている。
観点3 主体的に学習に取り組む工夫	・「Plus」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例が示されている。	・教材文の終わりの「学びの道しるべ」に、学習過程の例が示されている。	・教材の終わりに、学習過程の例が示されている。	・「学びを深めよう」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例が示されている。「学びを深めるヒント」や「視野を広げて」を複数設けることで、主体的な学びが期待できる。	・「深めよう」を設定し、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに、学習過程の例が示されている。	・「マイプラス」を設け、目次及び該当ページにマークを付けて示し、教材の終わりに学習過程の例が示されている。	・教材文の終わりの「考えよう」「深めよう」に、学習過程の例が示されている。
観点4 内容の構成・配列・分量	・AB判 ・いじめの問題をテーマとした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめのない世界へ」が設けられている。複数の教材とコラムを組み合わせ、一定期間に集中的に学べるように工夫されている。	・B5判 ・いじめの問題をテーマとした2つの教材とコラムの構成でユニット化した「いじめをなくそう」が設けられている。複数の教材とコラムを組み合わせ、一定期間に集中的に学べるように工夫されている。	・B5変型 ・いじめの問題をテーマとした3つの教材でユニット化した「いじめを許さない心について考える」が設けられている。複数の教材とコラムを組み合わせ、一定期間に集中的に学べるように工夫されている。	・B5判（別冊B5判） ・いじめの問題をテーマとした2つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「いじめと向き合う」が設けられている。複数の教材とコラムを組み合わせ、一定期間に集中的に学べたり、年間で複数配置をしたりするなど工夫されている。	・AB判 ・いじめの問題をテーマとした複数の教材が特設ページとともに年間を通して配置されている。	・B5判 ・いじめの問題をテーマとした3つの教材と扉ページ等の構成でユニット化した「「いじめ」を考える」が設けられている。複数の教材とコラムを組み合わせ、一定期間に集中的に学べるように工夫されている。	・AB判 ・いじめの問題をテーマとした複数の教材が配置されている。
観点5 内容の表現・表記	・各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、全ての教材名等が示されている。 ・「デジタルコンテンツで学びを広げよう」や教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等とともに関連するマークが示されている。	・各学年の目次には、4つの視点で色分けした教材番号とともに、全ての教材名等が示されている。 ・目次、教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等が示されている。	・各学年の目次には、全ての教材名等が示されている。 ・目次、「本書で学ぶ皆さんへ」及び該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードが示されている。	・各学年の目次には、全ての教材名等が示されている。 ・目次、教材名の下、別冊「道徳ノート」の教材名の右上等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードが示されている。	・各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、全ての教材名等が示されている。 ・目次、該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードが示されている。	・各学年の目次には、全ての教材名等が示されている。 ・目次、該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コード等が示されている。	・各学年の目次には、4つの視点で色分けしたマークとともに、全ての教材名、「この教科書にあるマーク」等が示されている。 ・目次、該当する教材名の下等に、デジタルコンテンツにつながる二次元コードが示されている。